

平成21年度第2回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成21年度第2回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成21年9月28日(月)午後1時30分～午後4時
3. 開催場所 市立図書館 2階会議室
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席8名(高崎委員・藤平委員欠席)
橘田昭雄委員長、三浦茂一副委員長、實形裕介副委員長、梶山林継委員、
金子馨委員、野中徹委員、須田昭平委員、永野昭委員、
教育委員会事務局6名
栗原教育部長、能城文化課長、半澤主幹、戸倉副主幹、石川主査、井上主査
5. 議題及び公開又は非公開の別
議題1 『木更津市史』の編集方針について(公開)
議題2 (仮称) 図説『きさらづのあゆみ』について(公開)
その他 今後の日程について(公開)
報告事項 ・市史編集事務所の環境整備
・次回、役員会までの計画
(非公開の理由)
6. 傍聴人 なし。

事務局 平成21年度第2回木更津市史編集委員会を開会いたします。
本日の市史編集委員会は、高崎委員、藤平委員より都合により欠席の連絡がありましたので報告します。
なお、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、委員の過半数の出席により本会議は成立しております。また、会議は公開で行いますのでご了承下さい。

事務局 会議次第によりまして、橘田委員長より挨拶をお願いします。

委員長 (橘田委員長挨拶)

事務局 議長は委員長にお願いする規定となっておりますので、橘田委員長に議長をお願いいたします。

橘田議長 議長を務めさせていただきます、宜しくお願いいたします。
それでは会議次第により議事に入ります。
議題第1「木更津市史」の編集方針について、事務局より説明願います。

事務局（能城課長） 議題第2号議題の「市史編集事業の概要について」、及び議題第3号の「今年度の編集委員会の日程について」説明させていただきます。

第1回編集委員会にて編集方針(案)を図り、各委員の皆様に出されたご意見を踏まえまして、8月28日に委員長、副委員長に集まっていた役員会を開催いたしました。その結果、若干の修正をいたしましたので、本日は、修正した箇所をご説明いたします。

まず前回、藤平委員から「2. 編集の目的」の部分で「自然」というものが抜けているのでは、というご意見をいただきましたので、(3)の部分に「自然」についての文言を3箇所の部分へ加えました。

次に「3. 編集方針について」は、(1)の部分に「市民が求める視点を重視し」という文章を加え、理解しやすい市史となるよう表現を変更しております。

また、前回、三浦委員に「3. 編集の方針について」の(5)の文章について、分かりづらい、誤解されやすい表現なのでは、というご意見をいただきましたので、「地域に生きる人々の“視点を踏まえて”編集します。」と、“視点を踏まえて”という文言を加えて修正をしております。

そして、「4. 市史の内容、構成について」ですが、前回示しました『きさらづびとの軌跡』という本のタイトルですが、「仮称」と言ってもあまりにも本の内容がタイトルから掴み辛いものであるため、スタンダードで分かりやすいタイトルの方が良いのでは、というご意見をいただきましたため、今後は、(仮称) 図説『きさらづのあゆみ』というタイトルに変更しております。ただし、これはあくまでも(仮称) ですので、今後、委員の皆さまとの協議の中で、また、構成等が確定し、編集がある程度進んだ段階での本の内容等も踏まえたいと考えます。

あくまでも『木更津市史』ということでありますから、場合によっては図説『木更津市史』といった形になって変わる可能も含んだうえで、現在のところは、(仮称) 図説『きさらづのあゆみ』と変更しております。

今回刊行するものは、市制70周年記念事業の一環として刊行するわけですが、……先々の(仮称) 新修『木更津市史』刊行を踏まえ、序章的な位置づけとして、平成24年11月に(仮称) 図説『きさらづのあゆみ』を刊行してまいります。また、別巻として刊行するわけですが、あくまでも『木更津市史』ですので、これの本1冊で木更津市の歴史が概観できることをきちんと踏まえて編集をしてまいります。

そして、できあがったものの中で次の効果が現われてくると考えられますので、今後の『木更津市史』のあり方や見直しを行うなど、こういった機運づくりをしていくことが必要になっていくと考えております。

また、(仮称) 新修『木更津市史』については、平成24年11月に刊行する市史の内容を踏まえ、これから先の議論になるかと思いますが、(仮称) 図説『きさらづのあゆみ』の反響等を見ながら、委員の皆様とどういった形で市史に取り組んで行くか議論していただき、その結果で必要であれば市の政策の長期計画に組み込み実現化をめざしていきたく考えております。

橘田議長 事務局より『木更津市史』の編集方針について説明がありましたが、質問、意見等があればお願いします。

野中委員 1つ確認をしたいのですが、何年後かに（仮称）新修『木更津市史』を刊行することをめざしながら、その前に市制70周年記念事業として、図説『きさらづのあゆみ』を平成24年11月に刊行するのですね。

事務局（能城課長） はい。そうです。

野中委員 わかりました。

それから、本編4巻とありますが、あまり厚い本を刊行しても、読むのが大変で読んでもらえないので、適当なページ数で読みやすい本にした方がよろしいのではないのでしょうか。

事務局（能城課長） 新修『木更津市史』の本編につきましては、（仮称）図説『きさらづのあゆみ』がどの程度の内容まで掲載できるのか、まだ確定していませんので具体的な（仮称）新修『木更津市史』の内容については、ある程度（仮称）図説『きさらづのあゆみ』の内容が固まってきてから、また、できばえを見ていながら新修『木更津市史』につきまして委員の皆さまに改めて議論をお願いしたいと考えております。それから現在、ご提案している本編4巻、資料編3巻としているものは、近隣の自治体市史を参考にし、あくまでも一案でございます。

橘田議長 事務局の説明は、（仮称）新修『木更津市史』については、（仮称）図説『きさらづのあゆみ』の内容が確定してから議論をして決定するということです。また、（仮称）図説『きさらづのあゆみ』の方は、写真や図を多く掲載し、親しみやすい読みやすいものに編集し、あまり厚くない本にしようということですね。

また、（仮称）新修『木更津市史』については、予算の関係もございますので、今後、（仮称）図説『きさらづのあゆみ』と並行して、具体的な計画等議論していかなければならないのでしょうか。

事務局（能城課長） ただいま、議長より予算のお話がでましたので、予算の件で再度、確認させていただきます。

前回の編集委員会でもご説明いたしましたが、現在、市の政策において意思決定、予算化されているものは平成24年11月に市制70周年記念事業の一環として刊行する（仮称）図説『きさらづのあゆみ』についてだけです。これから編集事業を進めていく中で、ここが欠けている、もっと編集事業を続けたいというご意見が委員の皆さまから出てくれ

ば、今後、市の政策の中にきちんと位置づける必要がありますので、この点を今一度、ご理解いただきたいと思います。

橘田議長 現在、(仮称)新修『木更津市史』については、市としての予定として認識されていない。あくまでも、市制70周年記念事業の一環で刊行するものだけが、政策の意思決定がされているということを委員の皆様も再認識しましょう。

他に質問、ご意見等はございませんか。

金子委員 本のタイトル表記についてですが、(仮称)とはありますが『きさらづのあゆみ』と木更津の文字は、ひらがら表記をするのでしょうか？

私は以前、小学校3年生が使用する『私たちの木更津』という社会科授業の副読本の編集にも携わっていましたが、この副読本のタイトルの“キサラヅ”は、漢字表記をしています。土地や名前など固有名詞については、漢字の方が適切かと思えます。また、ひらがなですと、内容が易しようなイメージを受けてしまうのではと感じ、『木更津市史』の別巻として刊行するのに少々、気になります。木更津市の表記は、漢字を使った方がよろしいかと思えます。

須田委員 私からも関連の質問をさせていただきます。

タイトルの「図説」という意味合いというか、何を意図して敢えてタイトルに「図説」を入れるのか、ご説明をお願いします。

橘田議長 事務局の説明をお願いします。

事務局(能城課長) あくまでも、誰もが親しみやすいものをめざすためには、視覚的に訴える部分が有効的であると考え、そういった意味合いで図や写真などビジュアル的なものを多く取り入れながら、分かりやすい表現で編集していくのですが、この本のタイトルにも「図説」という言葉を入れた方が、本の内容がダイレクトに伝わりやすいのではと考えたためです。

須田委員 図や写真を多く掲載し、分かりやすい親しみやすいものを編集することと、敢えて、タイトルにこの「図説」という言葉を入れることは関連付けなくてもいいように思います。

この「図説」という言葉に引き吊られて、これにこだわってしまうことは、最初から枠を決めてしまうようで「図説」とい文言が少々気になります。

事務局(能城課長) このタイトルにつきましては、すでに刊行されている『木更津市史』や『富来田編』とある程度区別すること、図や写真を増やしながら視覚に訴えるということで、タイトルから本の内容等がイメージしやすいのではと考え、現在、仮に「図説」と入っておりますので、これからの議論の中でタイトルについて議論を重ね、決定していきたいと考え

おります。

橘田議長 それでは、他にご意見ございませんか。

實形委員 「4. 市史の内容、構成について」の文章ですが、昭和47年以降があまりにもクローズアップされ過ぎている表現であると読み取れます。

この（仮称）図説『きさらづのあゆみ』は、全体の歴史を概観する構成にするので、“昭和47年以降を中心に”という表記では、昭和47年以降を中心に編集、掲載することになってしまうので、“昭和47年以降を加えて”という表記の方がこの本の全体的な編集、構成のバランスが良くなると思います。

また、“昭和47年以降の資料の整理・保存を並行して行う。”という表記もされていますが、この文章ですと、昭和47年以前の資料の整理・保存はしない。と穿った読み方もできるので、“加えて”という表記に変更した方が良いと思います。

特に、「3. 編集の方針について」の（5）で触れているように“地域に生きる人々の視点を踏まえて編集”というものをめざすには、書くネタとしての地元資料がなければめざすことができないことになり、地元の資料を取り上げていかないと地域に生きる市史にはなつてこないと思います。

事務局（能城課長） 確かに、前回の説明で昭和47年以降の新発見である程度のボリュームを割くと申しましたが、この時期がすべてではありませんので、實形委員のご意見は適切だと思いますので、表現を変更いたします。

橘田議長 昭和47年以降という掲載されていない時期もありますが、『木更津市史』、『富来田編集』に掲載されていない部分、そのとき発見されていない新資料、地域の資料が有り得るので、それをどんどん探して、（仮称）『きさらづのあゆみ』の編集するということですね。

橘田議長 これまで、たくさんのご意見をいただきましたが、この他ご意見はございますか。無ければ次の議題に進みます。

議題2（仮称）図説「きさらづのあゆみ」について議題に供します。①編集内容について事務局より説明をお願いします。

事務局（能城課長） 議題2（仮称）図説「きさらづのあゆみ」についてのうち、①編集内容について説明いたします。

詳細については、担当及び各委員さんより説明をお願いしますので、私の方は前回からの変更した箇所など全体的な構成案をご説明します。

当初の案では、構成が複雑で、重複部分も多く、また各時代、各分野のバランスが悪いという実形委員の方からのご指摘がございましたので、今回、ご提示したものは、実形委員の方に修正をしていただいたものでございます。

まず、体裁ですが、当初 A4 判で横書きということでしたが、縦書きに変更させていただきます。オールカラー 240 頁程度でございます。構成案については、資料②のとおりで、本文計 254 頁、木更津市略年表など総計 275 頁という修正案をご提案させていただきます。

そして、あくまでも参考資料でございますが、具体的なイメージをしていただくために縦書き 1 段組みと縦書き 2 段組みと 2 案を用意してまいりましたので、後ほどご覧ください。

また、前回、時代区分の関係をどうするかというご協議があったのですが、実形委員にご相談したところ、資料②の 2 ページの方へ「時代区分の目安」として掲載してありますので、今後はこの時代区分に従い編集を進めていただきたいと思います。これは、目安でございますので、各時代の分かれ目についてはその時代に接する時代ごとに今後、協議していただければと思います。

それでは、まず各時代の構成の説明を各提案者から行っていただきます。

事務局（戸倉副主幹） 「原始古代」の構成案を説明します。資料②により説明（2 ページ）

実形副委員長 「中世・近代」の構成案を説明します。資料②により説明（3 ページ）

三浦副委員長 「近現代」の構成案を説明します。資料 2 により説明（3～4 ページ）

事務局（石川主査）藤平委員から預かりました、「自然編」の構成案を説明します。

資料②により説明（4 ページ）

橘田議長 事務局及び各委員さんより説明がありました。

①編集内容について ご質問、意見等がありましたらお願いします。

事務局（能城課長） 今回、各担当の方から説明がありました各時代の構成案ですが、あくまでも目安でございます。これが、すべてでございませぬ、委員の方に提案していただいた一部で、参考資料でございます。このあと、組織体制の説明をさせていただきますが、こちらの組織体制を作る際に関係してまいりますので、想定される構成を委員の方に事務局からお願いをし、ご提案していただきました。これから、組織体制が整いましたら、各時代、各分野の班にて再度検討していただき、改めて編集委員会で議論していただきたいと思います。

実形委員 前回の役員会のとときにご提案した構成案ですが、2 頁もしくは 4 頁のコラム形式とします。図説ということなので、見開きで完結した方が見やすいと思います。

ですから、本文の始まりは、奇数ではないと、1 頁は無いということです。まず、ごあいさつで 1 頁、次に目次で 2～3 頁、そして本文が 4～5 頁と見開きで始まり、次から偶

数の組み合わせで掲載していきます。要するにビジュアル的ということなので、大きく写真を掲載しても良いのではないのでしょうか。

この体裁でいくと、すでに総計で240頁を超えてしまっているのです、この辺を整合性をとった方が良くと思います。

それから、コラム形式にしようという提案は、長文は読んでもらえないというのが、大前提でお話をします。ですから、一つのテーマに対して見開き2頁か4頁が限界ではないのでしょうか。さらに、図表とか写真をたくさん入れ、文章はできるだけ簡潔にまとめることで、読みやすく構成できると考えます。

コラム形式での1番のメリットは、興味のあるテーマのどこから読み始められるということです。通常、1冊の通史の場合、頭から読んでいかなければ、解説が分かり辛く読み難いと思いますが、各テーマでどれでも2頁か4頁で話が完結するので、どこから読んでもいい状態になります。

ただし、各テーマで細切れのようになってはならないので、大きな時代の流れは各時代ごとにきちんと抑えられるようにしていけば良いと思います。

橘田議長 ほか構成につきまして、ご意見等ございますか。

野中委員 他の分野も、實形さんの構成案で書いていくのでしょうか。

實形委員 はい。ご提案をしているところです。他のところも、できれば同じような構成だと良いと思います。1つのテーマで2頁から4頁、足りないようでしたら増やしていただいても結構だと思いますが、6頁、多くても8頁くらいでしょうか。やはり長文だと読んでもらえなくなってしまうので、最高4頁くらいが限度でしょうか。

前回の役員会では、読みやすくするために文字数も11ポイントという話になりました。また、段組は1段より2段組みの方が読みやすいと思います。事務局で、参考資料として用意されたものは、1頁30文字23行の2段組、11ポイントとなっていますが、このような例が読みやすいと思います。

橘田議長 他にご意見等ありませんか。

梶山委員 他の市町村でも、同じような概説本などを刊行していると思います。これまで刊行された他の自治体などの何冊か例を事務局でご用意いただき、次回、第3回の編集委員会の際に実際に目で見て、手に取りながら、これは良いこれは悪いと具体的に比較検討した方がよろしいですね。

永野委員 あまり図説ということで図や写真にこだわり過ぎてしまい、そのスペースが大きいと『木更津市史』の別巻としての威厳が薄れるような感じを受けます。たとえば、小学校の

教材なら良いのかもしれませんが。

永野委員 幅広く市民の方々に読んでもらおうとすると限りある頁数の中でどのように編集するのかどうか、気になります。読みたい人は、市の歴史に興味を持ち、図や写真よりも解説を知りたいのではないのでしょうか。各テーマによって異なってくると思いますが、見開き1ページの中での文章のボリュームと図や写真とのバランスが気になります。

ですから、私も梶山先生のご意見のように具体的な本を複数見ることは、イメージしやすく、図や写真、文章のバランスなど比較検討しやすくなり良い方法だと思います。

事務局（能城課長） その辺の図表と写真、文章のバランスは、難しいと認識していますので、今後、具体的な編集の話をするときに各専門委員、編集委員の皆さまと検討をして決めていきたいと考えております。

梶山委員 実際のものを見ると、委員の皆さんからも多くご意見をいただけたと思います。また、どんなものが作りたいものなのか、どんなものが読みやすい構成なのか具体的にわかると思います。私も、渋谷区、板橋区など市史編さんなどに携わったこともありますので、何かお役に立てればと思っております。

橘田議長 具体的な見本のようなものがあれば、意見も出やすくなります。事務局の方、ぜひ次回の編集委員会の際はご用意ください。他にご意見はございませんか。

三浦委員 近現代の各テーマ出しを考えたときに感じたことですが、これから執筆するにしても改めて調査をする必要があります。このテーマの要約だけでは、済まないと思います。ですから、(仮称)図説『きさらづのあゆみ』のための資料調査を至急始めて、執筆者を決めて、それで深く広く調査して、それを集約してなんとか2頁とか4頁とかまとめていかないと、刊行が間に合わなくなってしまうので、早く具体的に取り掛かりたいものです。できれば、今日この場で、構成について決めたいくらいです。

橘田議長 他にご意見ございませんか。

永野委員 この本を読むと木更津がその時代において、日本の中においてどういう位置であったかということはわかるのでしょうか。たとえば、朝廷との関わり合いや、江戸幕府との、明治政府との関わりとかが、木更津がどのような形でこれまで各時代を歩んできたのかが、わかってくるのでしょうか。

それから、もう一つ、木更津はいろいろな時代に文人が多く訪れた場所でそういった史蹟が残っています。この木更津の地が万葉集に残っていると、一茶の句であったり、芭

蕉など時代時代で文化の部分で触れているのでしょうか。やはり木更津を好きになる、木更津を良く知ってもらい、愛着を持ってもらうことは、木更津がそういった時代時代の中で中央とどのようなかかわりを持っていたか、木更津はこういうふうな位置づけであったという部分があれば、子どもたちは、知って、愛着を持ったり、誇りに思ったりと思いますが、先程、ご提案のあった各時代の構成案では欠落しています。

實形委員 今回の各時代のテーマの項目出しは、あくまでも目安と考えておりますので、“これを入れてください”“これが抜けている”といったことは、これから委員の方々や専門委員のスタッフなどと、もっと出し合い各時代ごとに削ったり、足したりしていけば良いと思います。

橘田議長 ご意見をいただきましたが、この他にご意見はありますか。(無し)
長時間になりますので、ここで暫時休憩をとります。

橘田議長 休憩を解きます。議題2 ②編集作業、班編成について 事務局より説明をお願いします。

事務局(戸倉副主幹) ②編集作業、班編成について 説明します。

(資料③により説明)

橘田議長 事務局より ②編集作業、班編成について 説明がありました。質問、ご意見がありましたらお願いします。

事務局(能城課長) 本日、ご確認いただきたいことは、編集委員の皆様にはいずれかの班に属していただきたいということです。先日の役員会の話を中心に、事務局の方で資料③のようにご提案させていただきました。

また、専門委員会の方には総務班の二人の委員は属していませんが、総務班の須田委員に関しましては、博物館長でございますので、博物館所蔵の資料関係や博物館職員との協力体制など連絡調整等をお願いしたいという意味合いでございます。そして、永野委員につきましては、企画課長でございますので、市制70周年記念事業の関係がございますので、記念イベントの日程と市史の刊行計画との整合性、調整をしていただくとということで、二人の委員につきましては、専門委員会には所属はしていただかないということにしております。

それから、先程から各時代の項目出しについて、いろいろ議論が出ておりますが、ここで編集委員の皆さまに専門委員会に属していただき、編集委員会と専門委員会との連絡調整役となっていただきたいと考えております。

そして、これから順次、専門委員のスタッフについて、委員の皆さまにご紹介いただいた方につきましてご本人にご承諾をいただきながら、専門委員会を増やしていくという作業を事務局の方で行ってまいります。スタッフが揃った時点で最終的にこの時代はどのような構成でいくのか、ということを協議していただく予定ですが、その前段で項目の出し

方、構成案が統一されていませんでしたので、この後、役員会を開催し、項目などの出し方を調整し、専門委員会へ投げっていくという流れにしていきたいと考えています。

ですから、今回、編集委員の皆さまが、事務局でご提案した班の所属でよろしいかご確認していただき、班編成については決定したいと考えております。

橘田議長 委員の皆さまが事務局で提案した班の所属でよろしいか、ご確認願いますとのことですが、どなたかこの班編成にご意見のある方いらっしゃいますか。(意義無し)

橘田議長 ご異議ないようでございますので、編集委員会での各班の所属と専門委員会での所属でご了解を得たものとします。これから、この班編成、専門委員会で具体的な調査・執筆作業を進めていくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

また、併せて編集委員の皆さんは、専門委員のスタッフの紹介を事務局の方へお願いします。

事務局（能城課長） 今回の編集員会で大分形が見えてきましたので、これからすぐに専門委員の候補者の皆様に交渉を早い時期に専門委員会のスタッフを決定していき、また、こちらも早い時期にそれぞれの班で検討できる機械を持てるように組織体制を整えたいと考えております。

橘田議長 この他にご意見はございますか。(無ければ) 次の その他に進みます。それでは議事のうち、その他 として、「今後の日程について」説明をお願いします。

事務局（石川主査） 市史編集に伴う「今後の日程について」説明します。
(資料④の説明)

橘田議長 「今後の日程について」事務局の説明がありました。質問、意見がありましたらお願いします。

永野委員 実際に執筆をはじめるのは、平成21年度からですか、それとも平成22年度からになりますか。

事務局（能城課長） 資料収集の兼ね合いとその他、いろいろあるわけですが、今後、項目立てがきちんと出て、班の中で執筆担当者を決定し、その後はその担当者の責任で資料収集、執筆を行ってもらおうと考えていますので、平成22年度、平成23年度の2カ年の間で行っていただく予定です。

永野委員 それから次回の役員会では、先程、相山委員のおっしゃっていた事例などを用意して、

ある程度のスタイルを決めて、第3回編集委員会で発表していただけるのでしょうか。

事務局 はい、そのつもりです。

橘田議長 ご意見をいただきましたが、その他 ご意見はございますか。全体的なものでも結構です。(無ければ) 次の報告事項に進みます。

(1) 市史編集事務所の環境整備について

(2) 次回、役員会までの計画 を事務局より説明願います。

事務局(石川) (1) 市史編集事務所の環境整備について(内容説明する)

- ・事務所所在地 潮見7丁目3番7号 潮見資料庫内
- ・パソコンの設置 9月初旬
- ・所有資料の設置 (他市の市史、資料など)

(2) 次回役員会までの計画について(内容説明する)

- ・専門委員会の調査研究員、執筆協力者への依頼活動の実施
- ・市史編集事業ボランティアの募集 資料⑤募集要項のとおり
10月1日発行、「広報きさらづ10月号」に掲載予定

橘田議長 報告事項について説明がありましたが、質問、意見等がありましたらお願いします。

野中委員 市史編集の事務所の方では、各専門委員会なの会議が開けるような環境でしょうか。

事務局(能城課長) はい。大丈夫です。

また、こちらの事務所の方には、井上、斉藤が発掘調査報告書の作成作業を行っておりますので、毎日、事務所には職員がおります。平日の昼間でしたら、会議の場としてもご利用いただけますので、何かございましたら、お電話なりしていただいで結構です。

橘田委員長 他に何かございますか。各委員さんのご意見も他に無いようですので、今日の議事は以上で閉じさせていただきます。

事務局 本日は、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席いただきまして誠に有難うございました。

これをもちまして、平成21年度第2回木更津市史編集委員会を閉会いたします。

平成21年9月28日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 橘田 昭雄